

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果					
		1	2	3	4	5	6
学位論文審査基準	1	○	◎		◎		◎
	2	◎	◎			◎	
	3	◎	◎	◎			
	4	◎	◎	◎	◎		
	5	◎	○	◎	◎	◎	
	6		◎		◎		○

自然科学研究科化学専攻博士後期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	A 優	B 良	C 可	D 不可
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえた的的確性	先行研究を踏まえた上で、非常に明確で適切な問題意識の下に学術的新規性、独創性が認められる課題が設定されている。	先行研究を踏まえた上で、明確で適切な問題意識の下に学術的新規性、独創性が認められる課題が設定されている。	先行研究を踏まえた上で、ある程度明確で適切な問題意識の下に学術的新規性、独創性が認められる課題が設定されている。	先行研究の調査が不足しており、設定されている課題には学術的新規性、独創性が認められない。
課題を追求する方法論の適切性	先行研究を十分に理解し、研究課題との関連および相違を明確にした上で、課題を解決するために最適な実験手法などを用いて研究が進められている。	先行研究を理解し、研究課題との関連および相違を明確にした上で、課題を解決するために適した実験手法などを用いて研究が進められている。	先行研究をある程度理解した上で、課題を解決することが可能な実験手法などを用いて研究が進められている。	先行研究の理解が不十分である。また研究課題を解決するためには適していない実験等が設定されており、研究が十分に進められていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究課題に求められる最適な研究方法が採用されており、実験、解析、資料の収集、調査等が非常に適切かつ十分に行われている。	研究課題に求められる適切な研究方法が採用されており、実験、解析、資料の収集、調査等が適切かつ十分に行われている。	研究課題に求められる研究方法が適切ではあるが、実験、解析、資料の収集、調査等に若干の問題がある。	研究課題に求められる研究方法が不適切であり、実験、解析、資料の収集、調査等に重大な問題がある。
結論の妥当性	博士論文の構成・論述が非常に明確かつ適切であり、関連研究の成果を適切に引用しつつ、研究結果に基づいた論理的な結論が提示されている。	博士論文の構成・論述が明確かつ適切であり、関連研究の成果を適切に引用しつつ、研究結果に基づいた論理的な結論が提示されている。	博士論文の構成・論述がある程度適切であり、研究結果に基づいた結論が提示されている。	博士論文の構成・論述が不適切であり、研究結果に基づいた論理的な結論が提示されていない。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究テーマ、研究手法、結論等に非常に高い独創性が認められ、当該研究領域および社会に大きく貢献する可能性がある成果を提供している。	研究テーマ、研究手法、結論等に高い独創性が認められ、当該研究領域および社会に貢献する可能性がある成果を提供している。	研究テーマ、研究手法、結論等にある程度の独創性が認められ、当該研究領域および社会に貢献する可能性がある成果を提供している。	研究テーマ、研究手法、結論等に独創性が認められず、当該研究領域および社会に貢献する可能性がある成果を提供していない。
その他	国際的に非常に高いレベルでの専門的知識と技術を有し、独立した研究者としての豊かな学識が認められると同時に、科学者としての倫理を理解し、社会への責任を果たすことが大いに期待できる。	国際的に高いレベルでの専門的知識と技術を有し、独立した研究者としての豊かな学識が認められると同時に、科学者としての倫理を理解し、社会への責任を果たすことが期待できる。	国際的にある程度のレベルでの専門的知識と技術を有し、独立した研究者としての学識が認められると同時に、科学者としての倫理を理解し、社会への責任を果たすことが期待できる。	国際的なレベルでの専門的知識と技術を有しておらず、独立した研究者としての学識は認められない。また、科学者としての倫理を理解しておらず、社会への責任を果たすことが期待できない。